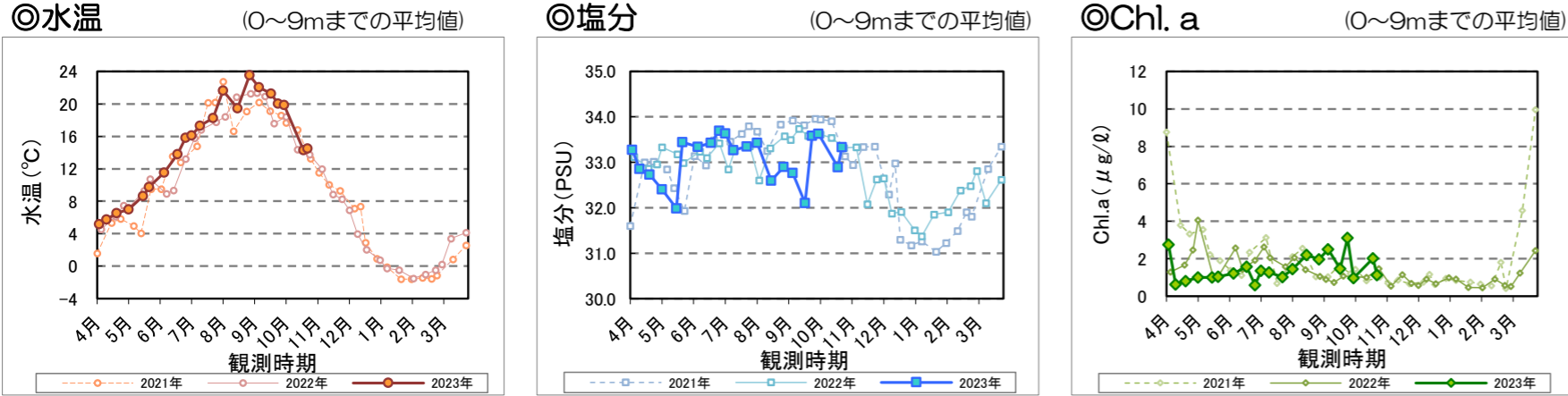


◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2023年10月)

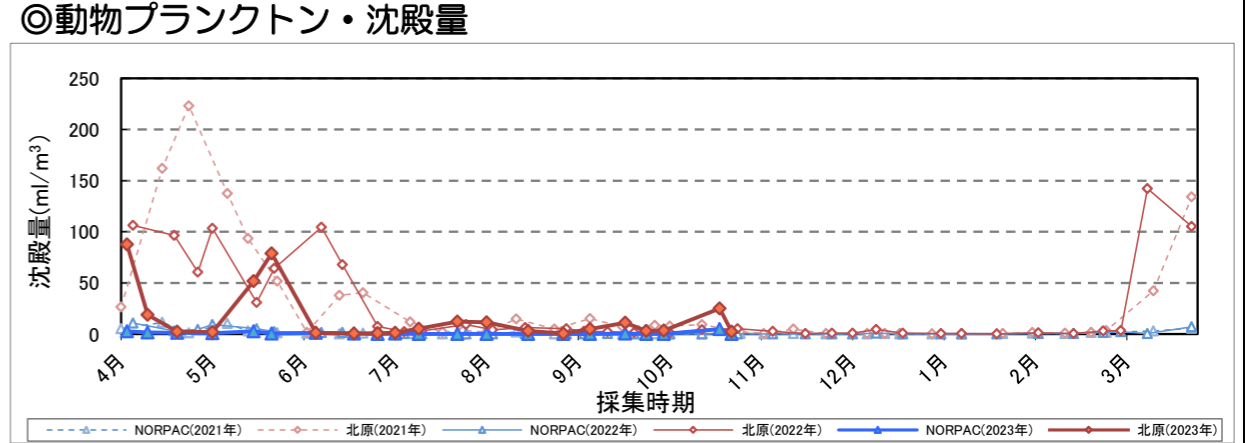
海洋環境データ



※観測：紋別市

動物プランクトンデータ

※分析：(株)エコニクス



概要

	10月2日	10月21日	10月25日
平均水温 (°C)	19.9	14.3	14.5
平均塩分 (PSU)	33.6	32.9	33.3
平均Chl.a (μg/l)	1.0	2.0	1.1
沈殿量 (ml/m³)	(NORPACネット) 0.2 (北原式定量ネット) 3.3	(NORPACネット) 4.8 (北原式定量ネット) 25.1	(NORPACネット) 0.1 (北原式定量ネット) 2.2
主な出現種	<p>(NORPACネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Acartia steueri [+] ○Centropages abdominalis [++] ○Paracalanus parvus s. l. [+++] ○Temora discaudata [+] ○Spionidae (larva) [++] <p>(北原式定量ネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Acartia steueri [+] ○Paracalanus parvus s. l. [+++] ○Oithona similis [++] ○Euterpina acutifrons [++] ○Copepoda (nauplius) [++] 	<p>(NORPACネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Acartia steueri [+++] ○Mesocalanus tenuicornis [+] ○Centropages abdominalis [+] ○Paracalanus parvus s. l. [+++] ○Pseudodiaptomus marinus [++] <p>(北原式定量ネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Acartia steueri [+++] ○Paracalanus parvus s. l. [+++] ○Pseudodiaptomus marinus [+++] ○Oithona similis [+++] ○Microsetella norvegica [+] 	<p>(NORPACネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Acartia amorii [+] ○Acartia steueri [++] ○Mesocalanus tenuicornis [+] ○Centropages abdominalis [++] ○Paracalanus parvus s. l. [+++] <p>(北原式定量ネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Acartia steueri [+] ○Paracalanus parvus s. l. [+++] ○Oithona similis [++] ○Euterpina acutifrons [++]
備考	(NORPACネット) — (北原式定量ネット) —	(NORPACネット) 腐植質多い (北原式定量ネット) 腐植質多い	(NORPACネット) — (北原式定量ネット) —

出現量の多かった種類

- Acartia steueri**: 体長：♀1.1-1.6mm, ♂0.9-1.3mm. 北西太平洋沿岸に分布する。日本では北海道から琉球列島の内海、沿岸。海奥の各層で豊かに見られることがある。
- Copepoda (nauplius)**: カイアシ類の発生途中の幼生。脱皮を繰り返してノープリウス幼生、コペポダイト幼生の段階を経て成体になる。海産魚類の仔魚生類には、餌としてのカイアシ類のノープリウス幼生密度が決定的といわれている。
- Centropages abdominalis**: 体長：♀1.3-2.1mm, ♂1.2-1.6mm. 日本周辺海域、渤海、黄海、オホーツク海、ベーリング海に分布する。
- Sabellariidae (larva)**: 多毛類の発生途中の幼生。カンムリゴカイ科は砂粒を固めた管にすみ、ろ過食を行う多毛類である。
- Paracalanus parvus s. l.**: 体長：♀0.8-1.0mm, ♂0.7-1.0mm. 全世界の沿岸域、表層。日本では各地沿岸に分布するカララス目カイアシ類の1種で、本州中部では春に、東北以北では夏に多く見られる。
- Spionidae (larva)**: 多毛類の発生途中の幼生。スズキ科は典型的な堆積物食者で、一般に内海の泥中に生息する多毛類であるが、中には貝殻に穿孔して生活するものも含まれる。
- Oithona similis**: 体長：♀0.7-1.0mm, ♂0.6-0.7mm. 各地の内海、沿岸。外洋で普通に出現する。日本各地の沿岸にみられる代表的な種類である。各大洋に多く分布するが、比較的冷水を好み、外洋より沿岸に多い。
- Pseudeuclava tergestina**: 体長：♀0.3-0.5mm, ♂0.3-0.6mm. 日本では太平洋、日本海、瀬戸内海に分布する。体は卵形、甲殻未端は常にまるく、棘はない。

※海洋環境データ欄の水温、塩分、Chl.aのグラフは、水深0~9mまでの平均値をプロットしたものである。平均水温、平均塩分、平均Chl.a欄の数値は、表示の都合上、水深0~9mまでの平均値を小数第2位で四捨五入した値で示し、グラフ上の表示と異なる場合がある。

※種名の先頭に“◎”がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[]内の“+”はサンプル中の個体数の多さが後述の程度であると判断し、区分したグループである[+]出現、[++]やや多い、[+++]多い、[++++]かなり多い、[+++++]極めて多い。

※種名の後ろの記号は、分析者の経験から北海道における出現傾向に後述の特徴があると判断し、区分したグループである(●冷水性種、◆暖水性種、■汽水性種)。

※今月のサンプルには腐植質(主に枯死・分解した植物由来の物質)が多く含まれており、沈殿量の数値はこれを含む。

※参考文献：
 ①千原・村野 (1997) 日本産海洋プランクトン検索図説[東海大学出版会] / ②山路 (1966) 日本海洋プランクトン図鑑[保育社] / ③国市立ミクロ生物館 監修 (2011) 日本の海産プランクトン図鑑[共立出版]
 ④Wilson, M. S. (1966) North American Harpacticoid copepods. 8: The *Daniellensia sibirica* group, with description of *D. stefanssoni* Willey from Alaska. *Pac. Sci.* **20** (4), 435-444.
 ⑤Pinchuk, A. I. & Hopcroft, R. R. (2006) Egg production and early development of *Thysanoessa inermis* and *Euphausia pacifica* (Crustacea: Euphausiacea) in the northern Gulf of Alaska. *J. Exp. Mar. Biol. Ecol.* **332**, 206-215.
 ⑥林 (2006) 水産無脊椎動物学入門[恒星社厚生閣] / ⑦Ohtsuka, S., Itoh, H. & Mizushima, T. (2005) A new species of the calanoid copepod genus *Centropages* (Crustacea) collected from Shimizu Port, middle Japan: Introduced or not? *Plankton Biol. Ecol.* **52** (2), 92-99.
 ⑧西・加藤 (2002) 日本産カンムリゴカイ科多毛類の分類について. *タクサ*. **13**, 5-17. / ⑨今島 (1996) 環形動物 多毛類[生物研究社] / ⑩日本プランクトン学会 監修 (2011) すかん プランクトン[技術評論社] / ⑪水島・鳥澤 監修 (2003) 漁業生物図鑑 新北のさかなたち[北海道新聞社]
 ⑫古賀 (1960) *Centropages abdominalis* SATOのノープリウス幼生. *日本水産学会誌*. **26** (9), 877-881. / ⑬伊藤・水島・久保田 (2005) 駿河湾三保沖におけるカララス目カイアシ類の季節的消長. *東海大学紀要海洋学部*. **3** (1), 19-35.
 ⑭大越・野村 (1990) 穿孔性多毛類 *Polydora* 属による北海道地方、東北地方沿岸のホタテ貝浸食状況. *日本水産学会誌*. **56** (10), 1593-1598. / ⑮斎水・久保田・平野・リンズィー (2015) 日本クラゲ大図鑑[平凡社] / ⑯奥谷 (2017) 日本近海産貝類図鑑【第二版】[東海大学出版部]
 ⑰大塚・上田・岩淵・伊東・徐・坂口・平野・木村・上野 (2007) 移入種か、在来種か? : 清水港から記載された浮遊性カイアシ類の1種の導入の可能性を検証する. *日本プランクトン学会報*. **54** (1), 30-38.